

2024年 7月7日

「アマチュア無線の魅力向上アイデア」提案書

1. 提案者 ・氏名（グループの場合は代表者）：鳥羽 幸信  
・年齢：  
・コールサイン（局免許保有者の場合）：J O 1 L N K  
・連絡先 住所：  
メール：
2. 提案カテゴリー（AまたはBを選択）  
B アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ資格取得を動機づけるアイデア
3. アイデア名： **アマチュア無線家による防犯パトロールの実施**
4. アイデアの概要（200字以内）：  
アマチュア無線の魅力を一所懸命公開してもそれが若者に届かないのは、そもそもアマチュア無線の知名度が低いからだと思います。アマチュア無線の存在を知ってもらうためには、単なる趣味の世界から飛び出し、我々一人ひとりが社会との接点を持つ必要があります。その一つが社会貢献としての防犯パトロールです。アマチュア無線を使ってパトロールの情報交換を行うことで世間の目にも触れ、興味を持つ人も増加すると考えています。
5. 詳細説明（図表を含めて4頁以内）：

後述する通り、「アマチュア無線の魅力向上」には、次の3軸での改善が必要と考えています。

- ① アマチュア無線のモダナイゼーション
- ② アマチュア無線のソーシャライゼーション
- ③ アマチュア無線のコンプライアンス

このうち「② アマチュア無線のソーシャライゼーション」の具体例として「アマチュア無線家による防犯パトロールの実施」を提唱するものです。

アマチュア無線の魅力アピールを時々見かけます。でも、なかなか若者には響きません。それは、そもそもアマチュア無線が知られていないからだと思います。昔の感覚で言えば、アマチュア無線は知られている前提で、あとは魅力を語ればよいのではないかと考えがちですが、それは既に認識が間違っていると思います。若者はアマチュア無線を知る接点が無いのですから。

では、どうすれば良いのでしょうか。我々アマチュア無線家側から再度社会との接点を作り直し、知ってもらふ活動から始める必要があります。その一つが、「アマチュア無線の社会貢献」の活用です。

どうも、「アマチュア無線の社会貢献」と言うと、業務利用の追認と思われる節もあるようです。若干後ろ向きにとらえている人も多そうです。でも、ここは考えを改めないといけないと思っています。一般社会と一線を引いた趣味など、栄えるわけがありません。King of Hobby と言われた時代は過去のもので、もう一度、こちらから社会へ歩み寄る必要があります。

米国をはじめとする諸外国ではこのあたりのアマチュア無線家による社会との接点が多くあります。少しネットを検索しただけでもこの通り。

- ・ Amateur Radio Emergency Data Network Search formSearch (AREDN)
- ・ 国際的な緊急通信ネットワーク  
International Amateur Radio Emergency Network (IAREN)
- ・ アマチュア無線民間緊急サービス (RACES)
- ・ アマチュア無線緊急サービス (ARES)
- ・ 山岳遭難救助  
ARRL Mountain Rescue Group (MRG)  
Radio Amateur Emergency Service (RAES)
- ・ 国立気象局の下で活動する SKYWARN
- ・ 遠隔医療 AMRAD (Amateur Radio Medical Assistance)
- ・ マラソン大会等での通信ボランティア支援
- ・ 環境モニタリング

では、我々も同じようなことを実施すれば・・・という話になりますが、関連する行政機関と連携して進めるにはそれまでの信頼関係が重要になり、簡単に始められるものではありません。

そんな中、比較的容易に始められ、無線が活用できるボランティア(社会貢献)として考えられるのが防犯パトロールです。

私自身、東京都に登録された荒幡山岳会という団体において、毎月 20 日の「地域安全の日」にライセンスフリー無線を使ったパトロール活動をしてきました。各地域のパトロール状況が無線で報告してもらっていました。今はこの無線にアマチュア無線を利用することも可能になりました。少し前には、ATM の振り込み詐欺防止の防犯活動において、アマチュア無線を使つての活動も実施しました。

これであれば、街中でアマチュア無線家がボランティアで防犯パトロールをしてい

ることをアピールしつつ、アマチュア無線そのものを見てもらう機会も増やせませす。興味を持ってくれる人も増えるのではないかと思います。

ある程度実績を積み、**「防犯」**といった観点から一緒に組みたいという行政機関も増えてくるのが期待できます。諸外国のような社会貢献につなげるための第一歩と考えています。

さて、冒頭でお話した改善の3軸についても簡単に説明させていただきます。まずは、次ページの表の通り、何点かの観点について私の開局時と現在の比較を実施してみました。見ていただくとわかるように、既に昔の常識は今の常識ではありません。価値観は人それぞれです。

これに合わせアマチュア無線界の考え方を現代風に変えることが ①アマチュア無線のモダナイゼーションです。決して昔の常識を否定するものではなく、多様性を許容することで、一般社会からの置き去り感を無くすることが目的です。

その上で、社会でのアマチュア無線の認知度を上げる必要があります。既にアマチュア無線という言葉すら知らない世代が大人になりつつあります。これを改善するのが ②アマチュア無線のソーシャライゼーションです。社会とのかかわりを持つためにアマチュア無線で社会貢献を行うことを意味しています。米国では、災害時のネットワーク構築の AREDN があつたり、マラソン大会の運営をアマチュア無線家がサポートしたりしていると聞きます。一般社会生活との接点を持つことで、普段の生活でアマチュア無線を見る機会を作ることが重要です。

そして、ニューカマーが安心してアマチュア無線を継続するために必要なのが、一般社会なみの ③アマチュア無線のコンプライアンスです。交信時の高齢者による若者へのパワハラ、セクハラのような問題が時々SNSをにぎわせています。これはアマチュア無線界として徹底的に止める必要があります。

以上、3軸での施策をそれぞれご提案させていただきます。発表の機会をいただければ、もう少し詳細にお話ししたいと考えています。

表1 アマチュア無線の価値観の比較

観点	昔 (40年前)	今	備考	モダナイゼーション	ソーシャライゼーション	コンプライアンス
ライセンス	第1級アマチュア無線技士が一番偉い	無資格でライセンスフリー無線を楽しむ人も多い	決してアマチュア無線がライセンスフリー無線よりも高尚とは思われていない	○		
送信出力	QRO	QRPで楽しむ人も増加	特定小電力トランシーバーでの遠距離交信	○		
QSLカード	JARL経由で紙カードを交換が一般的	紙カードの他、eQSLやLoTW等の電子的な形態も増加。 QSLカードには興味の無い層も一定数		○		
アンテナ	高いタワーに八木アンテナが憧れ	大きなアンテナを建てられる人は減少 (景観条例や近所の目)	米国ではステルスアンテナも普及	○		
運用場所	固定やモバイル	固定でもモバイルでもない移動運用が増加	SOTAやPOTAが人気に	○		
無線機	大型機が憧れ	ハンディだけの開局も普通	自作機の偉大さは既に伝わらない	○		
モード	FMやSSB、CW	FT8等のデジタルの台頭	AMはむしろノスタルジーとして普及	○		
世の中のイメージ	King of Hobby	盗聴? 携帯電話があるのに・・・	「何が面白いの?」 定番の質問	○	○	
若い人の情報源	雑誌 (CQ誌、ラジオの製作、初歩のラジオ)	YouTube、SNS	ももチャンネルを見てライセンスフリーを始めた人は多い	○	○	
日本の人口	第二次ベビーブーム	過去最低出生率	人口は減少中	○	○	
働き方	24時間、戦えますか?	コンプライアンス重視	パワハラ、セクハラは許さない風潮重要	○		○
企業の考え	年功序列	DEI、SDGs	多様性重視、否定しない	○	○	○
ボランティア	少数	一般的		○	○	
プライバシー	住所録作成が一般的	交信時の本名公開も抵抗ある層あり		○		○
ジャンク	宝の山	ゴミの山と見る層も増加	何かきれいなイメージを作る必要あり	○		○